

地域と協同の 研究センターNEWS

2020年3月25日発行
187号

【巻頭言】

研究センター設立25周年・法人化20周年にあたって 地域と協同の研究センターに期待すること

コープあいち 理事長 森 政広

25年前のめいきん生協

95年は1月に阪神大震災があり、全国の生協が支援に入り、現在の災害支援の先駆けの取り組みとなりました。私も出身が神戸で支援に行きましたが、神戸市内の変貌ぶりに驚いたのをよく覚えています。前年に東海コープ事業連合が設立され、東海3県の連帯が強まり、事業だけでなく、職員の教育研修なども一緒にできないかと生協学校が作られ、住まいや葬祭の取り組みが始まったのもこの頃です。私自身は、小牧センターで95年から始まった、JSS(組合員に配達を委託)方式、個配の先駆けとなる取り組みを始めていました。経営的にはバブルが崩壊し厳しい年でしたが、今につながることを、果敢にチャレンジしていた時代であったように思います。

日本の生協の2030年ビジョン「つながる力で未来をつくる」から

日生協は、今年6月の総会で日本の生協の2030年ビジョンを決定する予定で議論をすすめています。コープあいちは来年の総代会でコープあいちの2030年ビジョンを決定するため、検討をすすめています。日生協もコープあいちも同じ柱だてで検討をすすめており、ここでは日生協での議論を紹介します。

- ①「生涯にわたるこころゆたかなくらし」では、食を中心に、生涯を通じて利用する事業を目指していますが、若年層の利用や参加が増えないことへの危機感が多く出されています。
- ②「安心してくらしつづけられる地域社会」では、生活インフラのひとつとして地域のネットワークの一翼になることを目指していますが、この提案に共感する意見が出され、具体的なアクション案が多く出されています。
- ③「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」では、持続可能で互いに認め合う共生社会を目指していますが、地球温暖化だけでなく、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会を総合的に実現することや、平和の問題では、自国一国主義など厳しい情勢であり、発信の強化を考えるべきでないかとの意見が出されています。
- ④「組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協」では、組合員も職員も生き活きと輝く生協、そして持続可能な健全な経営を目指していますが、ダイバーシティや心理的安全性などをより反映すべきではとの声が寄せられています。
- ⑤「より多くの人々がつながる生協」では、連帯活動の強化を目指しています。

地域と協同の研究センターとも2030年ビジョンで目指している課題についてご一緒に研究や議論ができればと思います。今後の発展を期待しています。(もり まさひろ)

研究センター3月の活動

2日(月) 市民講座運営委員会 8日(日) 連続セミナー-多文化共生を巡る地域連携と社会課題への取り組み 多文化共生における協同性と新しい社会のあり方~多文化共生と協同組合の可能性~ (愛知県立大学多文化共生研究所との共催)	12日(木) 常任理事会 24日(火) 三河地域懇談会世話人会 25日(水) 役員選出に伴う立候補受付の公示 30日(月) 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同 ※ コロナウイルス感染拡大予防のため、予定されていたさまざまな活動を自粛しました。
---	---

目次	【巻頭言】 研究センター設立25周年・法人化20周年にあたって 地域と協同の研究センターに期待すること (森 政広) 第16回東海交流フォーラムの報告	1 2	役員選出に伴う立候補受付の公示 情報クリップ 企画案内	5 6 8
----	--	------------	-----------------------------------	-------------

よいよい“らし”をつくる 地域のつながり！～小さなつながりの進化と課題～

2月15日（土）第16回東海交流フォーラムをコープあいち生協生活文化会館に於いて、84名が参加し開催しました。当日は地域の4つの報告があり、小木曾洋司さん、神田すみれさん、安藤信雄さんからコメントがあり、参加者で交流し、最後にJAひまわりから特別報告をいただきました。ここでは4つの報告とコメント・特別報告の一部をご紹介します。（文責：事務局 大島三津夫）

実践事例報告「三重地域懇談会」

外国にルーツをもつ人たちの暮らしと 私たちにできること

安村富子さん（三重地域懇談会世話人）

三重地域懇談会の活動を紹介します。

- ①2016年度～2017年度は子ども食堂やフードバンクの取り組みを学習しました。
- ②2018年度は、子どもや高齢者の居場所づくりをテーマに学習してきました。
- ③2019年度は、三重県で暮らす外国人住民の暮らしぶりを学ぶことにしました。まず、三重県で暮らす外国にルーツをもつ人たちの暮らしや課題について5名の方からお話を聴きました。

日本で暮らす外国人が直面する壁は、「言葉の壁」「文化の壁」「心の壁」「制度の壁」と言われています。多文化共生社会実現に向け、違いを受け入れ、わかりやすい日本語での情報提供が求められます。

外国ルーツの人々の暮らしと私たちの未来

和田京子さん（NPO法人伊賀の伝丸代表理事）

NPO法人伊賀の伝丸（つたまる）と申します。伊賀市を中心に、主に三重県下で、通訳・翻訳を行い、今は外国にルーツをもつ子どもたちの支援に力を入れ始めています。

外国人といっても、いろいろな人がいます。出入国管理法が30年前にも大きく変わり、バブルの人手不足から、日本からブラジルに移住した方の子や孫も日本に来ていいですよと法律を変えました。それから技能実習生です。中国・ベトナム・フィリピン等からいらっしやいます。国際結婚をしている方、特別永住権を持つ韓国、朝鮮の方々、語学学校の先生や、ネパール・インド料理のシェフ、日本国籍で外国にルーツのある人もたくさんいらっしやいます。三重県は外国人住民の率が全国で4位です。だから私たちは多文化の先進地域でなければならないと思います。三重県では107カ国の人が住んでいます。文化も習慣もバラエティ豊かな状態です。年代も外国人は若年層の比率が高くなっています。この人たちにとっての壁は、まず言葉がわからないということです。派遣とか不安定な生活をしている人が非常に多い状

態です。外国から来られた方も働いて、税金を支払っています。地域の担い手として期待されている人になっています。年金制度にも入る義務があり、今、年金をもらっている人は、外国人の人が働いているから下支えが保たれているという状況です。ただし、就学義務や選挙権はなく、外国人には暮らしにくい状況になっています。感じている壁を取り除いて、活気ある町を一緒につくる、SDGs、持続可能な地域をつくる。私たちは一緒に新しいチャレンジをしていくことを考えるべきではないかと思います。

実践事例報告「尾張地域懇談会」

地域をゆたかに「生協も一緒になって」

～コープマルシェ報告～

牧野伸朗（尾張北ブロック ブロック長）

小牧センターは愛知県の北の方の地域、小牧市にあり、昨年の8月に小牧市と「子育て支援に係る連携・協力に関する協定」、「児童虐待防止のための見守り活動に関する協定」を全国の生協に先駆けて結びました。地域でより良い暮らしをつくるために、小牧市と一緒に取り組みを進めます。

地域をゆたかに「生協も一緒になって」

～コープマルシェ報告～

香田晴久（小牧センター）

小牧センターのエリアは小牧市、春日井市、犬山市、扶桑町、大口町です。生協への期待として、ただの場ではなくて、コミュニティの場の提供が求められているのではないのでしょうか。生協も一緒になって市民と地域活動を繋ぐ役割、生協も一緒に行うことの安心感が求められているのではないかと思います。小牧市の社会福祉協議会の方たちと一緒に、今高齢者の地域サロンに参加させていただいております。さらに春日井市の高齢者サロンにも参加させていただいております。犬山市では、地域農業活性化事業の一環として、犬山市シルバー人材センターの方がミニトマトの栽培を行っています。そのミニトマトの試食をし、すごく美味しく、生協を利用している組合員のもと、当日販売を行いました。

今回の報告はマルシェについてです。マルシェは

フランス語で市場という意味です。多くの方が楽しんで参加するコミュニティの場になっています。私たちも多くのマルシェに参加し、みなさんが楽しく取り組んでいる姿を見て、生協もマルシェを開催出来たらと実際にやってみることにしました。

マルシェの目的は、一つ目に、地域で活動する企業、福祉施設、NPO法人などが連携する場をつくり、参加者が地域の力に触れる場になればということです。二つ目には地域に関心がなかった参加者が地域コミュニティに参加するきっかけになればということです。三つ目は、地域に若いママが集まる繋がり場として、今まで生協に関心がなかった地域の方たちに、生協を知っていただく機会にできればということで開催しました。

今回、「グルッポふじとう」という会場をお借りしました。春日井市の高蔵寺ニュータウンにある元春日井市立藤山台東小学校の校舎をリノベーションした施設です。この施設は「世代を超えた多くの人が集い、にぎわう施設であってほしい、という未来への願いがこめられた多世代交流拠点施設」になっています。当日は幅広い世代の方が参加し、来場者は約360名と大盛況でした。

生協の仕組みを生かして地域の方たちと一緒にやっていくことで、新しい可能性が広がっていく事に気付くことができました。

実践事例報告「三河地域懇談会」

住みなれた地域で生き生きくらす-三河発見の旅！

天野真知子さん（三河地域懇談会世話人）

三河地域懇談会では、地域を知り、地域での協同の取り組みを学ぶ活動に力を入れてきました。6月に、新城市八名地区の「やなマルシェ」を見学し、午後に新城センターを見学しました。10月には西尾センターと、高浜のかわら美術館を見学しました。4回目になった「寄らまいかん」は今年も実行委員会を作り4月開催で準備をすすめています。

過疎と高齢化がすすむ旧額田町内

千万町・木下のみなさんとコープあいちの取り組み

福田健司さん（コープあいち岡崎センター）

過疎と高齢化がすすむ地域、岡崎市千万町町木下（ぜまんじょうちょう きくだし）という地域の事例を報告します。

愛知県の岡崎市の中心部から車で40分の山間部に10年前に廃校になった千万町小学校を活用した千万町楽校があります。この地域にあったお店が閉店し、地域の皆さんは買い物に困っていました。そうした中で、地域で活動されている方から千万町楽校を「集う場にしたい」との話がありました。週1回のグループ購入を提案し、すぐにグループ購入が

できると思っていましたがそうなりません。そこで地域の行事に参加して、生協をお知らせできればと行事を準備する実行委員にお願いしました。しかし、コープあいちが参加することに難色を示す声があり、多くの方がその声に賛同し、買い物に困ってなんとかしたいという方と、なぜコープあいちなのかという方で分断されてしまいました。荻野さんの提案で、「コープあいちが、千万町木下地域に必要なと感じている方から、地域の方へお知らせ活動します。」と地域の方が行う仲間づくりが始まりました。地域の方がコープあいちのことを伝えて、仲間づくりをするということは、新鮮で忘れていたことでした。職場の中で、しっかりやろうと一体感が生まれ、行事の日にはカタログやサンプル商品をお渡しして、地域の方に声掛けしていただきました。終了後に地元の方で組合員になって取りまとめをしてもいいという方が数名いたとうれしい連絡をいただきました。そして、二人目、三人目のキーパーソンが現れ20名以上の方で説明会をすることができました。新しいグループ購入班ができ、スタートしました。地域の方の声を聞いて、地域の方とコープあいちと一緒に活動できることが、協同組合としてすごく大切だということを学びました。

やなマルシェの進化

前澤このみさん（三河地域懇談会世話人）

やなマルシェは、毎週開催して、もうすぐ3年になります。この1年でよかったことは、子どもたちと一緒にいろいろなことをしてきたことです。新城市は自治基本条例ができ、中学生議会があります。そこで八名地区の子どもたちが、夕涼み会をやりたいと提言し、やなマルシェで夕涼み会をしました。大勢集まりました。10月にハロウィン、12月にはクリスマス会をやりました。厨房も使えるようになり、ランチを出しコーヒーを淹れたりするようになりました。お惣菜をつかってバックに入れて販売もします。そんな女性部としての活動をしていて、3月に愛知県で発表し、6月に東海北陸の代表になって発表し、1月に東京に行き全国の場でも発表しました。やなマルシェはこんなふうに、毎日毎日、毎週毎週進化をしております。

実践事例報告「岐阜地域懇談会」

地域を訪ねて知り、学び、

そして実践したことで変化がおきた小さな事例

福井千代子（岐阜地域懇談会 世話人）

岐阜地域懇談会では、特に中山間地で高齢化などによる過疎化がすすむ地域を知ることから始め、訪問と交流を重ねてきました。7年間で13回、地域で活動する皆さんを訪問し、その交流からたくさん

のことを知り、学んできました。訪問する中で、変化や進化を実感し、協同組合にどんな可能性があるのか、多くのことに気づきました。

私は今から 37 年前に岐阜地区市民生協（コープぎふの前身）を知り、共同購入の班での利用を始め、今も継続しています。そこに市の社会福祉協議会から、高齢者の「ふれあいサロンを地区で開いてもらえないか？」と呼びかけがありました。自治会長さんに相談し、12 年前に自治会の公民館を利用して、月 1 回サロンを開くことにしました。社協から年間 5 万円、3 年間の補助金もあり、お茶とお菓子だけで登録し活動を始めました。参加している方たちは、独居老人や昼間独居、老々 2 人暮らしですが、元気で介護認定もなく自立して生活できる人たちです。入れ替わりはありますが現在まで続いています。

毎回みんなが集まる前に準備し、お菓子とお茶やコーヒーを用意し、みなさんを「お客様」のようにしてきました。でも、「なにかが違う？」、本当にこれでよいのかと違和感もありました。そして研究センターの活動で、南医療生協のこと、山県市北山の農家レストランのこと、そして中津川市の介護施設「ひなたぼっこ」でのことなどを知り、そこでは高齢者の人たちが生き生きと参加していることを知りました。この人達たちの笑顔が素敵で「これだ!!」と思いました。高齢者を「お客さん」にしてはいけないと気づき、みんなで一緒に準備と片付けなどもしようと話し合い、自分ができる事をしようとスタートしました。自分達がやりたい事を考え「みんなでやってみる」と「楽しくなる」ようです。家の中だけでの生活ではない「誰かの役に立つ」「誰かが喜んでくれる」ことを実感し、それが生きる力になっていると思います。

「ひなたぼっこ」職員集會に参加して

井貝 順子さん（岐阜地域懇談会 世話人）

「ひなたぼっこ」職員集會に参加しました。施設を利用する人が、自分らしく過ごせるように心を砕いている職員の日々の活動を知り、いろいろなことに気付かされました。

「この方は何を望んでいるのか？介護する相手の一挙手一投足に目を配る」ことによって見えてくることがあるという発表を聴き、生協会館の食堂で相席した高齢の男性を見ていて、困っていることに気づき、自然に手助けしていました。今、民生委員の活動をしていて、月一回独居の高齢者のお宅を訪問しています。「ひなたぼっこ」での気づきの後、話の内容がかわりました。心の声が聴けるようになった気がします。

人と関わることは楽しいことと気づき、以前より深く人とかわることができるようになりました。

全体討論のでコメント

全体討論では 3 人の方から 4 つの報告に関連してコメントをいただき、全体で交流しました。コメントの一部のみ報告します。

小木曾洋司さん（中京大学現在社会学部）

ダイバーシティという言葉を考えておきたい。一つは、日本人が多様化していることを意識しないといけない。もう一つは、外国籍の方のダイバーシティです。単なる労働者ではなく、日本政府の低賃金労働者誘導政策です。これまでの社会変化を理解するときに、どんな位置にいるか、どう認識するかというと、私が使っている言葉は中間集団です。

神田すみれさん（多文化ソーシャルワーカー）

「市民社会って何をさすか」という話をした時、昔のフランスには城壁の内側にいる人のことを市民と言ったと聴きました。城壁の中にいる人は同じ言葉を話し、同じ文化、価値観を持っている人です。外国にルーツを持つみなさんを私たちは城壁の中の同じ市民と考えているのでしょうか。

安藤信雄さん（中部学院大学経営学部）

最近出た本「サピエンス全史」に触れ、小さなつながりを中心に紹介したい。7 万年前にホモサピエンスに認知革命が起きました。認知革命とは、共同で集団的にフィクションを見ることができるといことです。認知革命によって、20 万年前の狩猟採集の時代に、生物学的物理体系が現在のようになりました。我々人間の体は、そう簡単に変えられないが、意識を変えることは可能です。その際、変えていくことの基準になるのが、幸福、こちよいということが、この本を読んだ私の感想です。

特別報告

『食と農を基軸とした地域協同組合』をめざす

JA ひまわりの模索 ～くらしと生産をつなぐ

今泉秀哉さん（JA ひまわり専務理事）

JA ひまわりは 30 年前、5 つの農協があつまって発足しました。食と農を基軸に地域協同組合をめざしました。これが発足以来のミッションになっています。現実には、非常に厳しい状況になっています。

我が国の農業政策は世界でも特異な状況です。消費者と生産者を意図的に分断している政策。それから地域政策の視点を欠いた産業政策中心の農政。大規模化の推進、輸出促進、その反面家族農業を軽視してきました。

それと全く違った立ち位置で世界は動いています。2014 年の国際家族農業年、2019 年からは「家族農業の 10 年」が採択され、2018 年に「小農宣言」を国連が採択し、国連は家族農業を守ることが食料の安定的な確保につながるというメッセージを発しています。

2020年3月25日

役員選出に伴う立候補受付の公示

定款第18条に基づき、第11期役員任期が2020年5月26日満了しますので、定款第16条に基づき第20回通常総会において、第12期理事・監事を選出します。役員選出規約第4条2項に基づき、役員立候補の受付を以下の通り公示します。

記

1. 理事・監事の定数

理事の選出枠及び定数は役員選出規約第2条(注2)に基づき第4回理事会で決定し次の通りとします。

**理事 35名 選出枠(注1) 愛知地域枠：12名 岐阜地域枠：7名 三重地域枠：7名
全体枠：9名**

監事の定数は監事の協議から次の通りとし、役員選出規約第3条(注2)に基づき選出します。

監事 2名

注1：理事 選出枠

地域枠＝愛知・岐阜・三重の県域で設けます。各県域内に居住、又は職場がある等県域で活動する個人正会員・団体正会員の選出枠です。

正会員はお住まいの地域、又は職場がある地域で立候補することができます。

全体枠＝県域を越えた活動をする団体会員、研究センター運営に関わる理事及び東海3県以外に在住する正会員の選出枠です。

注2：役員選出規約

第2条 理事は、個人正会員及び団体正会員を代表する者のなかから会員の所属などの構成を反映して選出します。選出枠とその定数は、毎年度末の会員数にもとづき、理事会が決定します。

第3条 監事は、個人正会員及び団体正会員を代表する者のなかから選出します。

2. 立候補受付期間

3月25日(水)～4月3日(金) 午後5時まで

3. 立候補の手続き

立候補は、地域と協同の研究センター事務局に電話又はメールで連絡し、立候補届出用紙を受け取り、記入し、受付期限《4月3日(金)午後5時》必着で、事務局に提出ください。

受付時間は土日を除く午前10時～午後5時です。

事務局連絡先 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315 E-mail AEL03416@nifty.com

4. 選出の方法

定款第16条及び役員選出規約第6条に基づき第20回通常総会に於いて選出します。

以上

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
第20回通常総会役員選出管理委員会

情報クリップ



NAVI 2020.3 No.816

自然災害発生後の生協の支援活動

日本生活協同組合連合会 2020年3月、A4判、36頁、367円

特集

自然災害発生後の生協の支援活動

＜コープのある風景＞ 生協の災害復興支援活動
 ＜今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見＞
 生協コープかごしま 瀧川 亮さん
 ＜想いをかたちにコープ商品＞
 CO・OPいろどり野菜と国産しらす入りふんわり豆腐バーグ
 ＜生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品＞
 CO・OP生姜とかつおだし香る京風うどんあんかけ仕立て
 ＜ZOOM IN 生協の店舗づくり＞
 とくしま生協 コープ住吉
 ＜あなたの町の組合員活動＞ 大阪よどがわ市民生協
 ＜組合員さんが語る私の生協ライフ＞
 富山県生協

＜世界と日本の協同組合＞ ワーカーズコープ
 ＜日本全国 宅配現場におじゃまします！＞ あいコープみやぎ
 ＜いつでもどこでも地域とくらしを支えます＞ コープさっぽろ
 ＜明日のくらし ささえあう CO・OP共済＞ コープみえ
 ＜この人に聴きたい＞ ガーデンデザイナー 佐々木 格さん
 ＜ほっと navi＞ コープこうべ 生協共立社

月刊JA 2020.3 vol.781

全国農業協同組合中央会 2020年3月、A4判、48頁、年間予約5,204円（消費税込）

スゴイ農業、スゴイJA

JA自己改革の現場から

十和田おいらせミネラル野菜 (TOM-VEGE) トムベジ
 におけるJA十和田おいらせ (青森県) の取り組み

高橋良晴

きずな春秋 一協同のこころ

童門冬二

私のオピニオン

中村朱美

JAトップインタビュー

全地区に営農組織 「1町1農場」へ

齊藤勇一 (富山県JA福光 代表理事組合長)

展望 JAの進むべき道

農業・農村に「優しい」政策を

金井 健 (JA全中常務理事)
 協同組合とSDGs 第11回
 SDGs、「協同組合と新しい公共」 中野 理
 平成30年度JA経営マスターコース優秀論文紹介
 マスターコース生選抜賞
 コミュニティの創出が育む貸出金の未来
 滝瀬卓弥 / JAさいたま (埼玉県)
 海外だより [D.C.通言] 連載105
 農業者からの高支持を維持するトランプ大統領 伊澤 岳

生活協同組合研究 2020.3 No.530

食の簡便化志向の現在

公益財団法人 生協総合研究所 2020年2月 B5判 60頁

巻頭言

食品添加物の安全性は今どうなっているのか

健康寿命の男女差と食生活

樋口恵子

長村洋一

特集

食の簡便化志向の現在

諸国における食の簡便化事情

鈴木 岳

調理食品に関わる消費の動向について

宮崎達郎

■連載

ミールキット市場 拡大を続ける3つの要因

阿古真理

フォーカス くらしと社会の最新情報⑩ 〈最終回〉

レジ袋有料義務化の概要と課題、他社の動き

業界50年のヒット商品から未来を探る

小野光司

「手間抜き」が心に響く家庭の食事情

山本純子

■連載 協同組合系研究所の逐次刊行物より⑫

『社会運動』

山崎由希子

■海外情報

山崎由希子

第 7 回ヨーロッパ社会的企業研究ネットワーク (EMES)

国際学会参加報告 山崎由希子

■本誌特集を読んで (2020.1) 禿あや美・北村 洋

■新刊紹介

樋口恵子著 『老〜い、どん!』

●公開研究会

「都市と若年世代の未来」 (4/4 名古屋)

●アジア生協協力基金2020年度助成先決定のお知らせ

●「生協社会論」受講生募集

文化連情報 2020.3 No.504

食と農を軸に、持続可能な未来を構築しよう

日本文化厚生農業協同組合連合会 2020年3月、B5判、72頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

「第22回厚生連医療経営を考える研究会」の開催に向けて 佐治 実
日本の人口動態は1980年頃から変動を始め、社会経済体制は2000年頃
から変遷を続け、今後2040年頃、新しい日本の形ができあがる

新谷周三

二木教授の医療時評 (177)

地域共生社会推進検討会「最終とりまとめ」を複眼的に読む

二木 立

新連載 私たちは何を食べているのか (1)

ゲノム編集食品 (1)

すべてのゲノム編集食品・作物の規制と表示を求めます

安田節子

熊谷麻紀

未来を託す若者たちへ (3)

大学改革

吾

令和元年度 山口県厚生連「看護部集合研修」を実施して 上田幸子

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン記者会見・院内集会

小磯 明

国連「家族農業の10年」と「小農宣言の意義」

(最終回)

食と農を軸に、持続可能な未来を構築しよう

関根佳恵

中国農村住民の医療保障 (最終回)

農村住民医療保障の課題と展望

王 文亮

国民が安全安心に暮らせる社会の構築 (1)

韓国政府の取り組み

友岡有希

多様な福祉レジームと海外人材 (23)

イスラエルの建国と高齢者介護

安里和晃

臨床倫理メディエーション (39)

修復的正義の実践に向けてー「害」と「傷」のピアサポート

中西淑美

全国統一献立 山梨 ほうとう

安本美登里

JA 安芸における農福連携事業の取り組み

ーJA 直営農園で就労支援

原 順子

野の風●歌舞伎の伝統と魅力を伝えたい

佐藤健史

熱帯の自然誌 (48) 熱帯の森林

安間繁樹

ドイツの介護保険制度 (6)

アルツハイマー協会リュッセルハイム支部 (2)

協会の歴史と活動

小磯 明

◆第22回厚生連医療経営を考える研究会開催のお知らせ

□ 自著を語る

食料・農業・農村の政策課題

／ 田代洋一

いのちを選ばないで やまゆり園事件が問う

優生思想と人権

石川 満

□ 書籍紹介

食べ物が劣化する日本

ちょっと気になる「働き方」の話

▶ 線路は続く (139)

地域の記憶がつなぐ札沼線

／ 西出健史

▶ 最近みた映画

ジョジョ・ラビット

／ 菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

国連生物多様性の10年「湿地のグリーンウェイブ」参加イベント

長良川下流域環境観察会

2020年5月10日(日)

10:00~15:00(集合9:45)

長良川河口堰がおよぼす環境影響を観察します。船に乗り採泥し川底を調査します。ヨシ原を川から観察します。揖斐川と木曾川の水辺にも入り比較観察します。

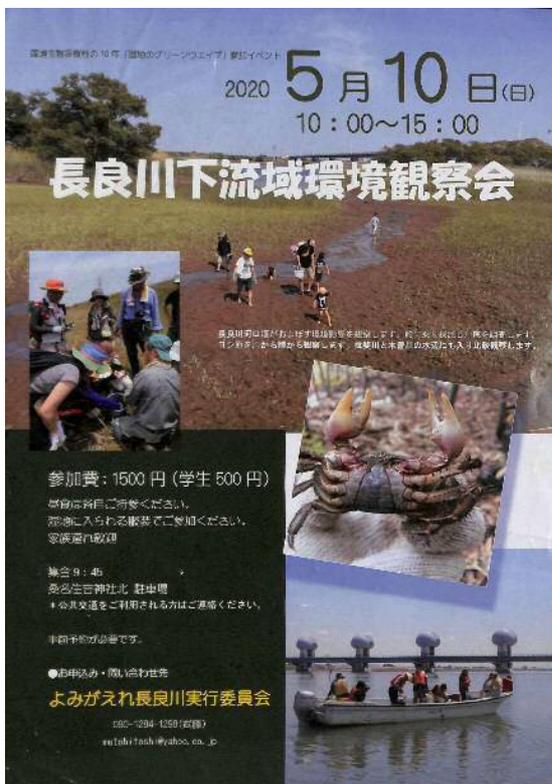
参加費：1500円(学生500円)
昼食は各自ご持参ください。

湿地に入られる服装でご参加ください。家族連れ歓迎。

集合場所：桑名住吉神社北 駐車場

*公共交通をご利用される方はご連絡ください。

事前予約が必要です



●お申し込み・問い合わせ先
よみがえれ長良川実行委員会

090-1284-1298 (武藤) mutohitoshi@yahoo.co.jp

※新型コロナウイルス感染症対策のためイベントが中止または延期される場合があります。イベントが開催されるか等については主催者に直接問い合わせください。

地域と協同の研究センター 4月の予定

3日(金) 役員選出に伴う立候補受付17時締切	18日(土) 第5回理事会
4日(土) オンラインセミナー 「人口減少社会と協同組合の役割」第4回セミナー 都市と若年世代の未来	企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため 中止・延期することがあります。 ご参加の前にホームページ等でご確認ください。
6日(月) 第11回常任理事会	
8日(水) 尾張地域会委員のつどい	
11日(土) 第4回豊橋生協会館へ寄りまいかん	